

平成 29 年度 第 3 回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：平成 29 年 11 月 8 日（水） 15:00～17:00

2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 205 会議室

3. 出席者：

（委員）永井議長、竹中委員、成宮委員、堀田委員、山本委員

（事務局）末松理事長、菱山理事、梶尾執行役、樽林執行役、泉統括役、松尾経営企画部長、岡安総務部長、前田経理部長、中村研究公正・法務部長、岩谷知的財産部長、岩本戦略推進部長、高見産学連携部長、加藤基盤研究事業部長、河野臨床研究・治験基盤事業部長／創薬戦略部長、大場経営企画部次長、佐野国際事業部次長、江川革新基盤創成事業部次長

4. 議事

1. 日本医療研究開発機構の取組と課題について
2. 法人評価の結果について
3. その他

5. 議事の概要

議長より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、議事に入った。

議事 1 について、事務局より、日本医療研究開発機構の取組と課題について資料 1－1 及び資料 1－2 を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 創薬戦略部がつくられて医薬品開発の部署が整理されたのはよかったと思うが、医療機器や再生医療も整理が必要ではないか。
- 情報提供の対象をメディアにも広げていただき、国民理解のベースがメディアを通じて上がっていくとよいと思う。
- データシェアリングやオープンイノベーションにはリサーチアドミニストレーターの人材育成が必要ではないか。
- 診療画像データベースについては、AI による解析だけでなく、EHR に画像データを付けて患者に返したり、2 次利用したりするのも重要ではないか。
- 国際レビューアの導入を国際的な競争が激しい分野とするのは、非常に意味があるのではないか。

- 研究開発をマイルストーンで細かく評価するのはよいが、評価を受けるために何度も資料作成を研究者が求められるようなことがないようにしてほしい。
- 外国のファンディングエージェンシーと協力して国際レビューアを選択できるようにすることが非常に重要ではないか。
- BINDS で研究者の相談を受けて解決した事例が出てくると、アカデミアの中でもより協力的になるのではないか。
- RIO ネットワークによって、研究不正の防止や検証の標準化が進むのではないか。
- 研究マネジメントのチェック項目の運用に当たっては、大学の研究者が相談できるシステムが必要ではないか。

議事2について、事務局より、日本医療研究開発機構の平成28年度法人評価の概要について資料2を基に説明を行った。また、議事3について、事務局より、平成30年度医療分野の研究開発関連予算の概算要求のポイントについて資料3を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 医療機器と再生医療については、今後更に注力していただきたい。
- インターステラー・イニシアティブについては、もっと若い人が参加して、これからの時代に何が本質的かという議論をさせてもよいのではないか。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。